

会議録（要旨）

件名	平成31年度 第1回亀岡市総合教育会議
日時	平成31年4月23日（火） 午後1時30分～4時10分
場所	市役所8階 800会議室
出席委員	9人 桂川市長／石野副市長／神先教育長／関教育長職務代理者／江口教育委員／ 北村教育委員／末永教育委員／出藏教育委員／福嶋教育委員
欠席委員	なし
事務局出席者	10名 浦企画管理部長／仲山地方創生担当部長／田中企画調整課長／ 佐藤企画経営係長／長谷川主事／ 片山教育部長／國府教育部次長兼総括指導主事／ 亀井教育総務課長／土岐学校教育課長／巻田教育総務課総務係長／
傍聴者数	

1 開会

2 市長あいさつ

3 総合教育会議について

- ・ 亀岡市総合教育会議について 事務局説明

4 協議事項「教育施策の重点項目」について

（1）亀岡市の教育推進について

市長

日頃感じておられる亀岡市の教育のあり方や現状の課題について、お聞かせいただき意見交換をさせていただきたい。

委員

私が赴任した頃の口丹波の競技力は決して高くなかった。「井の中の蛙状態は周り

の大人の責任」、「府外でも活躍できるようになってもらいたい」と思い小学生にバスケットボールを指導した。結果、数年で成果が出てきた。子どもたちが大人になった時のことを考え、スポーツもやりながら基本的な勉強やあいさつ、周りへの気遣いなどを身に付けることが大事だと思った。学校教育の中でできることは取り組んだが、限界を感じることもあり、社会教育の中での取組も必要と感じた。子どもを育てるためにはまわりの大人のあり方が大事である。子どもには夢を持ってもらいたい。田舎に育って田舎の良さを知り、そこから大きく羽ばたいてもらうための取組を学校教育と社会教育の両面から進めていきたい。

委員

安詳小学校の卒業式でPTA会長があいさつされた中で、卒業生が大人になる頃には今ある仕事の半分が無くなっているという話をされていた。決して先の話ではなく民間企業で今年から週5日の勤務のうち、2日在宅勤務が可能で副業も解禁となる事例もある。世の中の動きはとても早くなっているが、俯瞰的にみると教育の動きは遅いと感じている。ただ、様々な形で新しい教育が出てきている。

亀岡の教育を考えていく中で、どこの領域に力を入れていくかが大切だと思う。1つは問題行動への対応、1つは学力向上だと思う。色々な学校を廻らせてもらうと支援の必要な子どもが増えているので教師を増やしてもらいたいとの声がある。学力についてもかなり前から言われていて各学校で取り組まれているが、結果につながっていない。特定の課題ではなく構造的な課題があるように思う。これまでの形で良いのかが問われている。これまでの公教育は画一性が生命線であったが、新しい試みとして他の学校との違いを出していくといいと思う。違いを内包する公教育のあり方を考えていってはどうか。

委員

教育は、一人ひとりの個人が自己実現を図り、よりよい人生を送る力を付けるもの。また人生を充実させることが、よりよい社会づくりにつながることも大きな目標となっている。社会の変革は激しく大きい。今、よしとされていることが10~20年でどうなっているかはわからない。それに対応できるようにならないと自己実現は難しい。地域の課題で一番大きな少子化が大きく横たわっている中で、10年1日のごとく変化しないことはよくないが、変えてはいけないうものもある。そこを見定めながら、子どもたちが本当に将来自己実現を図っていき社会を担っていくために、どうすればよいか軸足を置いて亀岡の教育を作っていく一助になりたい。

委員

出身は亀岡ではないが、亀岡の風景に魅せられ、その中で子育てをしたいと思って引っ越してきた。子どもが3人いる。歩いて親子で通園できる幼稚園に行かせたいと希望して、3人とも幼稚園でお世話になった。その間、私が病気になった時も、先生方にとっても親身に子どもの心のケアをいただき感謝している。恩返し思いからPTA活動を始めた。PTAで出会った先生に「未来の希望は子どもの育ち」「社会の宝は子育てに奮闘しているお母さん」という言葉をかけてもらい励まされた。「教育って素晴らしい」「お母さんって素晴らしい」と強く感じるようになった。最近社会に取り残されている感を持っているお母さんが多い。「子育ては大事業

なんだよ」という思いを共有したい。PTAは家庭教育、社会教育、学校教育の3つの役割を持っていると思っている。まず自己肯定感を高め、子どもたちが失敗も含めていろいろな経験をして生き抜く力を付け、生きる喜びを味わえるようにするのが教育だと思う。みんなで子どもを育てながら共に学び成長していくまちにしていきたい。

委員

私は亀岡出身で、西部地域で生まれ育った。私のころはそこまで人数が少なくなかった。そのころもいじめはあったが、不登校の子はいなかったと記憶している。現在の小・中学校ではささいなことからいじめまでは行かなくてもからかいやささいなトラブルで不登校になる子どももいる。そして自分に自信のない子どもが多い。学力があっても自分の学力より少し下の学校を選択したりする。現在募集している「スタディアブロードプログラム」にチャレンジするような子どもばかりだというのがそうではないと思う。子どもには自分を信じてチャレンジしてもらいたい。そのために微力ではあるが私に伝えられることは伝えていきたいと思っている。

委員

教育の素人ではあるが、委員としてしっかり学んで発信していくことが大事だと考えている。教育の根底は人と人とのつながり。家庭が根底にある。学校や地域が家庭につながり連動していくことが教育だと思っている。これが上手く機能するとよりよい社会につながる。一つ推進したいことがある。「京都・亀岡学校応援事業」ふるさと納税の一つである。各学校の予算面での要望を実現していくために活用できていると思うが、いかにして拡散（広報）していくかが難しい。昨年度も何十万円かは集まったと聞いている。卒業生の母校に対する思いはいつまでもある。学校に押し付けるだけではだめで同窓会で周知するのがいいかとは思いますが、ちらしを持って行けるのかなど具体的な取り組みが私の中で定まらない。また市長・副市長にもアドバイスをいただければと思う。それぞれの学校の元気につながればいいし、寄附者もやってよかったと満足してもらえ。何とか活用していきたい。

教育長

教育長を拝命して3週間となった。多くの課題や施策がある。これまでとは違う世界ではあるが、日が経つにつれて共通項は多くあると感じるようになっていく。校長の時は常に危機管理を絶対的なものと思っていた。落城3日築城5年という。そうなるはいけないという思いと楽しい場所に人は集まるという思いでこれまでいろいろな取り組みにチャレンジしてきた。今回、教育長として皆さんの前に立たせていただいたので、みなさんの力を借りながら将来子どもたちが亀岡に根ざすように、ここにいれば楽しく幸せな生活が保障されるといった教育現場にしていきたい。そのために、新たなことに挑戦しながらリーダーを育てていき、様々な目標に向かっていきたい。

副市長

学校等の条件整備をしっかりしていくことが行政の役割である。漠然と不安なことは、中国・シンガポールの若者が貪欲に積極的に勉強や新しいことに取り組んでいること。日本の若者にはその貪欲さが無い。その差が割と早いうちに出てくるので

はと思っている。日本の社会に対する不安と現場に対する不安がある。いじめや不登校といった個々の問題もあるが、これからの社会でどういう子どもを育てていくかを考えたときにそれぞれの違いを認める公教育をしていかなければならない。

IOTやAIが普通になる時代、昔であればこういう子どもを育てるとというのが教育の一つの目的としてあったと思うが、今は価値観も多様な中、集団で教育を行わなければならないため目標とするところと現場での活動にギャップがあり先生方には苦勞していただいている。自己実現する力や自己肯定感を含め、教育の中で普遍的なものをどこに求めていけば負担が減るのかということを考えている。

市長

キーワードの一つは「多様性」今の子どもたちを画一的なものでは縛れない。子どもたちの個性や能力を活かすために、多様性を認めあいながら公教育の中でどう実現していくかが大切である。教育によって人生は変わる。未来の礎を作るのが小中学校となる。未来に希望の持てる子どもに育ててもらいたい。社会に出て揉まれても這い上がって来る、生きる強さのあるチャレンジできる子どもをどう育てていくかが課題。人と人とのつながりが子どもを強くしていくと思う。市長としては、亀岡で育った子どもたちが一度は世界に出て、最後亀岡に戻ってきたいと思ってもらえる教育をしなければならないと思っている。ふるさとでしかできない体験をすることで生きる力にもつながると思っている。

少子化の中でどういった教育を進めていくか。今は施設面に投資をしている。施設が老朽化し更新していく時期となっている。お金をどのような形で優先順位をつけて投じていくのか。行政を進めていく上で重要となる。

学校規模適正化を進めているが、まだ別院中学校ブロックについては進められていない。西部地域も、児童数減少は同じような状況になっていて待ったなしとなっており議論をしていかなければならない。数合わせであってはならないと思う。子どもたちが自分の人生に希望が持てる取り組みや環境づくりが大切。学力も大切だが、自分がやる気になった時に身に付くものでもあると思う。それを早く感じてもらえるような教育ができるかである。昨年度から亀岡川東学園や東輝中学校で行っている志学習の取り組みは、イデオロギーではなく子どもたちが自分たちの人生を真剣に考える起点として行っている。そのことによって刺激を受けチャレンジする気持ちを表に出してもらいたい。子どもたちが持っている夢や希望を、表に出してみんなと共有化していくことが次のチャレンジにつながる。小学校から中学校に上がる手前の何でも吸収できる時期にそういうことをすることが、将来亀岡で学んでよかったと思ってもらえることにつながると私は思っている。

委員

子どもたちの思い出に残る体験や経験は重要だと考える。新しい学習指導要領がめざす教育もある意味、経験主義的な方向性をもっている。志学習はその人の人生を物語るという意味において、みんなが一斉に行う体験とは少し違う。何をやったかではなく、その経験を自分の人生にいかに関わり込むかということが大切になってくる。だから志学習と学力はかなりつながりがある。ただこれを今の学校教育の中で部分的に導入するのか、パイロット的にどこかの学校でするのか、公教育そのもの

の在り方を抜本的に見直すのかという所は議論が必要となる。日々公教育は動いている。現場の混乱は避けなければいけない。

何でもやれるわけではなく公という部分をどう担保していくのか慎重に考えていかなければならない。

市長

私が考えているのはどう子どもたちに選択できる環境を与えるかということ。一つの切り口で物事をさせるのではなく、自らの意思で選んでいくことが重要だと思っている。選択で人生は大きく変わる。一番大きいのは中学校を卒業してからの高校の選択である。小学校を出て私学を選択して行く人もいるが、逆に言えば公立の小・中学校も校区ではなく選択させることも重要でないかと思っている。公教育の中でできるかどうかという問題もあるが、この夏のスタジアムブロード事業も、チャレンジするかどうかを子どもと保護者で考えて選択してもらおう機会となっている。ハードルの高い低いはあるがいろいろなケースを積み重ねて自ら選択して体験・経験してもらえ環境を整えていきたい。志学習についても公教育でやりなさいと言っているのではなく、多様性を認め合っていくことにもつながる選択肢の一つと思っているものである。

委員

特色ある学校づくりとよくいうが、公教育の中ではなかなか特色を出しきれない。例えば亀岡川東学園で英語教育を一つの柱にしている、いずれどこの学校もそうなっていくとは思うが、亀岡全体で英語に力を入れてもよいのではないかと思う。これからの子どもたちには必要になる能力であるし、亀岡全体で英語に力をいれているということはPRポイントになると思う。

市長

英語やスポーツも選択肢の一つではあるが、それよりもコミュニケーションできる人を育てることが大切であると思っている。人間関係の作れる人を育てる、その中に語学がある。国語の読解力を重視する意見もある。いろいろな教育があっていいと思っている。公教育をどうしていくかについては、教育委員会の中でどんどん議論して投げかけて欲しい。教育に重きを置いて予算を付けているが賄いきれていない。優先順位を付けるためにも教育委員会からもこういうことをしたいという提案が欲しい。教育委員のみなさんで方向性を見定めていただきたい。特徴ある教育を既成概念抜きで新たな領域や多様性も含めて議論をお願いする。

(2) 亀岡市教育大綱（亀岡市教育振興基本計画）について

教育長（説明要旨）

平成 28 年度から教育振興基本計画（以下、基本計画）を亀岡市の教育大綱としている。基本計画は第 4 次総合計画との整合をとって平成 25 年度から平成 32 年度までの取り組みとなっている。基本計画では教育の基本理念とめざす子ども像、6 つの重点目標を定めており、重点目標の達成に向けて各施策に取り組んでいる。本来であれば今年度と来年度に次期基本計画（大綱）の策定を行い、令和 3 年度から新

しい基本計画による取り組みを開始すべきであるが、そうすると第5次総合計画と策定期間が同じになるため、整合性が取れないこととなる。このため、現基本計画の終期を1年延長して、第5次総合計画に基づいた新しい大綱を策定していくことを考えている。委員のみなさんの意見をお伺いしたい。

市長

16頁に施策の体系がある。この目標は先ほどからのお話に入っているものであるが、時代の流れが早いこととあわせて、これからの大綱をどう意味づけていくのか。これまでの大綱との違いも明確にしていけないといけないので、御意見を願います。

委員

課題としては、文化資料館のことが棚上げになっている。新資料館構想はできてはいるが、その先を考えていけないといけない。また、教育研究所が毎年実施しているサイエンスフェスタが非常に好評で参加者が増加したためかなり待ち時間が出ている状況となっている。改善していけないといけない。

委員

目標1「生きる力」の育成でコミュニケーション能力の向上を重点的な項目にできないか。今後一番大事な部分になってくると考える。

委員

これからの亀岡の教育を考える上で、どのようなオリジナリティを持たせるのかという議論が必要だと思う。大綱は教育委員会の基本となり常に振り返るもの。特徴がないと形骸化する。一目見て亀岡が目指している教育がわかるものに作り替えていく必要がある。公教育の幅は広い。多様性の担保はとても難しいし、具体的な議論をするのには時間がかかる。言葉先行にならないよう何を優先するかという強弱をつけていけると特徴は出てこない。特徴がないと多様性の前提が崩れる。亀岡の目指す教育が見えてくる大綱ができるといいと思っている。

委員

総合計画を策定される時に教育の関係者は入られているのか。総合計画あつての教育大綱だが、最初の段階で教育長などが入っておられないと根本でずれてしまったら後の修正が大変なことになる。

事務局

庁内の策定委員会で教育長と教育部長に入っている。

市長

総合計画の策定は外部委員にお世話になるが、骨子は市の内部で各部署が関わって作っていくことになる。教育大綱は教育委員会で作ってもらうもの。総合計画の策定に関わっていただく方法を外部委員会とするか、内部とするかは検討をする。

委員

目標1~6がいきなり出てくる。学校教育と生涯学習、社会教育の枠組みや学校のたくさんの取り組みが出てくるのではなく、子どもに付けたい力は「これ」といったものがあって、そのためにこういう取り組みをするといったような大きなビジョンを示せればいいし、構想を描いたほうがいい。思い切って軽重をつけて亀岡の今

の課題とリンクさせてはどうか。総合計画と整合性を図ることは大切と思う。

委員

基本計画の終期はもともとわかっていたのではないか。

教育長

基本計画を大綱としたのは、平成 28 年度である。新しい委員もお迎えしたので意見を伺いながら時間をかけて新しい形の大綱を策定していきたいと思っている。

委員

SNS 関係の子どものトラブルやいじめなどの問題もある。体験や経験で亀岡独自の取り組みがあり、子どもが外に出ていきたくなるようなシンプルなものがいいと思う。保津川は本当に素晴らしい資源で、先日中学生のふるさと体験に同行したが子どもたちがとても楽しんでおり、川を美しく守り舟下りを楽しんでもらおうという船頭さんの気持ちにも触れられた。環境を大事にする心を子どもに伝えることも大切だと思う。

副市長

総花的なのは事実だ。目指すのはふるさとを愛する心を持った子どもなのに、資料編の 8 頁を見るとアンケート結果はそうになっていない。世界で活躍できるような子どもに育ててもらいたいというのが本音かもしれない。我々が求めているものと市民が求めているものが本当に一致しているのか、どういう子どもを育てたいのかという議論は必要だと思う。

市長

行政の思いと保護者の思いが違う場合もある。行政としては人口減少等でまちが縮小すると子どもたちの教育にも影響してくると思う部分もある。世界に出る仕事も今はふるさとでできると私は思っている。ふるさと体験を今は中学校 3 年生で行っている。ふるさと体験の財源はふるさと納税である。全ての子どもたちに体験してもらいたいと思っている。ただ、時期や実施学年を含めてどこかで見直しはしていきたい。そんな議論もしていただければと思う。

委員

ふるさと体験の時期については以前から議論しているが、学校との調整がなかなかつかない。補足であるが、基本計画については毎年施策の点検・評価を行っている。以前は毎年全ての施策を評価していたが、大変な労力だった。今は 3 年間で全ての施策の評価を行うようになっている。評価は外部委員にお世話になっているが、少しずつ評価が良くなっている。

委員

総花的になるのには理由がある。強弱をつけるのは良いと思うが、問題事象が起こった時のことがあるため、項目を削るということはとても難しい。

市長

強弱の付け方もある。議論して行っていただきたい。現計画を延長して策定期間については 1 年延長していくということでもよろしく願います。

(3) 学校規模適正化について

教育長（説明要旨）

東輝・詳徳中学校ブロックは、先日も地元説明会を行い、来年4月のスタートに向けて準備を進めている。通学路の安全対策を中心に学用品の関係や子どもの不安解消に向けた取り組みなど具体的な取り組みを行っている。よりよい形で新しい学校に行ってもらえるよう取り組みを進める。来年度から保津小学校が特認校となり、亀岡市全域から希望者を受け入れられるようになる。ただ、先に特認校となっている東西別院小学校の実績を見ても一度に人が増えるものではない。亀岡中学校ブロックについては、亀岡駅北に住宅が建設される見込みが示されている。亀岡小学校にあまりスペースがない中、校区分けをどうしていくのか。あまり猶予がない中ではあるが、迅速に丁寧に進めていきたい。別院中学校ブロックについては地元との調整が少し前進している。

市長

本日保津小学校を特認校に決定いただいた。小規模校からも受け入れは可能なのか。吉川小学校、蕨田野小学校、青野小学校も特認校にしてもいいのではと思っているが何も議論できていない状況である。西部地域を含めた中での議論となる。その辺りを含めて御意見をいただければと思う。

学校教育課長

小規模校からも希望されれば受け入れは可能。通学時の送迎は基本、保護者の負担と責任において行うことになる。

委員

学校規模適正化については、計画を立てるのは簡単だが、実施していくには時間がかかるし大変だということを実感している。ただ後手にまわってはいけないと思うし、別院中学校ブロックについても2～3年で結論を出していかないといけないと思っている。特認校は増やしすぎると意味がなくなる。規模適正化にも合致しない。西部地域については、私は施設一体型の小・中一貫校にしていくべきと思っている。

委員

西部地域は現実的に考えた時に、児童・生徒がどこまで集まるかが課題となる。地元の子どもの減少している中で1人、2人増えても変わらない。別院中学校ブロックでは学校を残して欲しいという思いも持っておられるが、生徒数が減少していることに自分たちも責任があると感じておられるようだ。特認校にしても児童数が思うほどは集まらないことを理解されている。西部地域には小・中一貫校のような形で学校が残せばいいと思っている。

委員

特認校には車での送迎スペースがあった方がいい。保津小学校には駅北から通学させたいという保護者も出てくるのではないかな。子どもは大勢の中でもまれて切磋琢磨しながら育ったほうがよいと思う。何が一番いい道なのか考えていきたい。

委員

校区のことはとても難しい。校区の話はしないことになっていた時期もある。特認

校のことでは、小規模校の児童が東別院小学校に行ったと記憶している。手をこまねくのではなく動いていくという地元の意向もあり、特認校は意味のあることではあるが、長期的に見れば少子化は止まらない。子どもたちには部活動を含め切磋琢磨は必要だと思う。地域の思いも理解するが、子どもたちのためにできることを考えて長期的な見通しを持って丁寧に議論を積み上げる必要がある。

委員

学校選択制と特認校を直接結びつけない方がいい。選択肢があることは大切だが、選択の前提は違いであり、特色を作れるかどうかもある。競争の原理も働くため慎重に考えるべきだと思う。一方で、教育に対する個別化に対して学校がどう向き合うかは大きなテーマになってくると思っている。そういうことも含めながら亀岡の公教育にどんな選択肢が作れるかは議論していかなければいけないと思う。

委員

亀岡中学校ブロック、東輝・詳徳中学校ブロックは丁寧に説明に入ってもらい、良い方向で進めていければと思う。先日別院中学校の入学式へ行ってきたが、入学生3名と少なく集団として成り立つのかと思った。中学校の多感な時期に必要な経験にはある程度の人数が必要である。子どもの成長のために何を最優先にするか考えなければならない。

(4) その他

市長（説明要旨）

- ・ 亀岡市・蘇州市スタディアブロードプログラムの参加者募集について
⇒今年初めて国際交流を含むプログラムを実施する。今年取り組みを踏まえて来年度どうしていくかを考えていくので、また御議論いただきたい。
- ・ 亀岡運動公園プール亀岡市小・中・義務教育学校生無料入場券交付事業について
⇒昨年度は3割程度の児童・生徒が利用。亀プーは公共施設としてのレジャープールであるが、市外からの利用者が多いため市内の子に体験してもらいたいと始めたもの。今年は5割位の児童・生徒に利用してもらいたいと思っている。
- ・ 「BCome+」（ビーかむぷらす）について
⇒子育てをワンストップで総合的に支援する拠点を保健センター内に設置した。5月には初めてのイベントも行う。
- ・ 亀岡市の不登校児童生徒の推移について。
⇒亀岡市では、小・中学校とも不登校児童生徒が少しずつ増加している。子どもたちが学校現場に復帰できるよう取り組みを進めていきたいのでよろしくお願いする。

5 神先教育長あいさつ

6 閉会